

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600476
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	愛媛県喜多郡内子町平岡甲1243番地1 (Tel)0893-44-4555
自己評価作成日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*ホームは利用者にとって慣れ親しんだ山や河に囲まれ、河川や公園に隣接しており、四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に立っている。又ホーム内のリビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。 *職員の自主的な月1回の勉強会を行ない、自己啓発やサービスの質の向上に努めている。 *一日が気持ちのよいあいさつで始まり、気持ちのよいあいさつで終わる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じる事ができる。事業所の理念は、運営者が利用者との関わりを大切にしたいという気持ちが表現されたものとなっている。また、職員は、理念を実践するために、具体的な行動目標を各自のロッカーに掲示し、実現に向けて取り組んでいる。必要な知識や技術を習得するため、職員が講師となり、勉強会が月1回行われている。事業所全体で利用者のサービス向上に取り組まれていることが伺える事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームあおぞら

(ユニット名)

1F

記入者(管理者)

氏 名

土居洋子

評価完了日

平成24 年 11 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時から社長夫婦の思いをこめて作られた理念が掲げられている。職員は理念を踏まえて個人目標を立て、実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念は、澄みきった「あおぞら」のように健やかで朗らかな生活が送れるようにと思いを込めてつくられている。さらに、理念を実践するため職員一人ひとりが具体的に個人目標を立て、各自のロッカーに掲示し、常に理念や目標を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の情報を得たり花いっぱい運動の一環としてホーム前の花の世話をしている。地域の道路清掃・祭りやバザーに参加し足り飲み物を提供したりして交流に努めている。 (外部評価) 自治会に加入しており、回覧板を通じて地域の行事などを把握し、積極的に参加している。事業所の避難訓練には、近隣の方にも参加してもらったり、地域の秋祭りに神輿や獅子舞いが来てくれるなど地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホーム共同主体で、愛媛県在宅介護研修センターの先生による出前講演会を開催し、町内の民生委員様はじめ多数の近隣の方に出席して頂いている。今後も広く地域に啓発しながら地域ネットワーク作りにおいても活かして生きたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 町担当者、地域代表者、家族等のメンバーで約2ヶ月に 1回開催しホームの状況等報告している。消防訓練・救 急救命には、職員や地域の方々にも参加してもらって いる。又町内のグループホーム合同で行っている運動 会や講演会等の行事と一緒に開催し、多くの方に参加 していただけるよう努力している	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、事業所の現状や行 事、課題等を報告したり、講演会や研修会を合わせて 行うなど工夫をしている。活発に意見交換がされてお り、出された意見は運営に活かすよう心がけている。	認知症高齢者の理解や、地域との交流や協力をより深 めるためにも、運営推進会議に消防や警察など各機 関、地域の様々な立場の方に参加を呼びかけるよう取 組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町の担当者は運営推進会議にも参加し、事業所の現状 を理解している。町役場が近いので、直接出向き、事 業所の実績やケアサービスの取組みの報告、介護保 険関係や提出物の書き方等教えてもらったり等気軽に 行き来している。町内の他の事業所との会議にも町の 担当者は出席しており、情報交換をすることができる。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の生活福祉 の支援上の課題等について相談したり研修のお知らせ などがあり、相互の協力関係が構築されている。ま た、介護相談員派遣事業の実施で、訪問活動が始まる ようになっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、身体拘 束にあたる行為を記載した文書を目につく所に貼り、 職員の意識向上を図っている。言葉での拘束等職員同 士で注意しあうようにしている。	
			(外部評価) 事業所で行う内部研修や勉強会で、職員全員が身体拘 束にあたる行為やその弊害について学習し、職員同士 で話し合いながら身体拘束のないケアを実施してい る。また、お互いに注意し合いながら言葉での拘束を しないよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて充分納得して頂くよう、説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との信頼関係を築くために、来訪時等、お茶をお出しし気軽に会話しながら、会話の中から要望を聞き取るよう努力している。玄関には意見箱を設置している。 (外部評価) ホームに対する意見や要望は意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議を通じて意見や思いを表せる場を設けている。また家族来訪時に、気軽に話し合える環境をつくっており、可能な限り対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員はリーダーを通じて意見や要望を社長や管理者に伝える事が出来る。社長や管理者は出された要望に必ず返答を行っている。又年2回の職員評価の時期には、個別に職員から聞き取りを行い反映させる工夫をしている。 (外部評価) 職員は日々の支援の中で気が付いたことや思いを各ユニットのリーダーに話し、管理者や運営者に伝わるシステムが構築されている。人事考課が行われており、運営者は職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。職員の個性を大切に、事業所全体の向上に繋がるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回（夏・冬）に人事考課を実施し、職員と面談をして、自己評価、上司評価を行い、昇給、賞与等を決めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の知識、経験等を考慮して、レベルに合った研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内のグループホーム連絡会にて月1回の管理者会を実施。又町内グループホーム合同の職員勉強会や、交流会を実施している。町内グループホーム合同の運動会や講演会も実施し、サービスの質の向上にも取り組んでいる。相互評価事業にも参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問し本人の言葉に耳を傾けるようにしている。不安や要望等、言葉の端々からも感じ取り、納得のいく話し合いが出来るよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族の困っておられる事、不安なこと、要望等に耳を傾け、まず必要としている支援を見極めながら話し合い、受け止めるように心掛けています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人、家族と十分に話し合い、本人が自宅で暮らしを希望している場合は、在宅でのケアサービスの調整しての暮らしの可能性等、家族やケアマネージャー等と話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は「同じ目線で自然体で接する」ことを心掛け、利用者と一緒に食事や作業をしながら、利用者の経験を通しての教訓を教わったりしている。「ありがとう」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に、近況報告等に留まらず、家に居られた頃の様子や要望等話して頂き、「本人が自分らしく心地よく過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。又、電話や定期的な手紙でも関係を築く努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の訪問があったり、行きつけの美容室にお連れしたりと馴染みの関係が継続するよう取り組んでいる。病院受診の帰り等近くの店によって買い物するなど意識して行うようにしている。	
			(外部評価) 利用者の友人や知人の訪問があったり、行きつけの美容室や病院受診を職員が支援している。また、希望により利用者の住んでいた家に出かけることもある。今までの関係が継続されるように配慮して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 不穏になられた利用者をそっと見守る雰囲気づくりをしたり、トラブル時は勿論だが、楽しい時も利用者同士が関りあえるよう間に入り、一緒に解決したり喜びあったりし孤立が無いよう努めている。又、性格や社交性等踏まえ、気の合う方との席の配置も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けをし、継続的な関わりが保てるよう心掛けている。又、何時でもできる限り相談に乗りアドバイスが出来る様心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用開始時に、本人、家族や関係者から様子を聞き取ったり、利用者本人との日常会話の中から希望や意向の把握に努めている。希望が上手に伝えられない利用者については、以前に聞き取った情報を基に本人本位になるよう心掛けている。	
			(外部評価) 利用者との関わりの中、特に入浴介護などの1対1になれる場面で思いを聞いているが、利用者の重度化が進み聞き取ることが難しくなっている。職員は、日常生活のしぐさや表情などから思いや意向を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人、家族との話し合いの中で1人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや様子観察、医療機関との連携等により、心身状態を把握し、一人ひとりに寄り添い、出来る力を見極め、ゆっくり待つ、見守る大切さを常に心掛けている。コミュニケーションを密にとり出来る限り本人の思いを汲み取っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見要望を聞き、担当者が素案を作成し、カンファレンスで職員全員で検討する。家族にも確認してもらっている。モニタリングも職員全員で行い、家族の要望等も盛り込みながら現状に合った介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の思いを反映した計画の原案を作成し、職員全員で検討している。完成した計画は、家族に説明して同意を得ている。毎月のケアカンファレンスで状況確認するとともに、現状に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の状態の変化や重要事項等は、赤青ペンを使用し注意しやすくしている。記録はその日の勤務者全員が関るようにしている。その時に関った職員が詳しく記入する事により、他職員も情報を取得し、新しくステップアップした介護計画に繋がるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院、買い物への同行や、馴染みの美容室へお連れしたり、また、自宅までドライブしたりと本人や家族の要望に応じて柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要時速やかに対応できる地域資源の発掘や、関りに努力している。必要に応じて地域資源と共同しながら支援したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とす る事が出来る。受診には職員が同行し、必要に応じて 家族にも同行してもらっている。結果は受診ノートに 記入し家族に報告している。協力病院の医師が月2回往 診をしてくれ、緊急時は夜間も往診してくれる。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を行って いる。通院介助は職員が対応し、必要に応じて家族に も同行してもらっている。協力医療機関の医師の往診 が月2回あり、緊急時は夜間も対応してくれる等、利 用者にとって安心できる体制が整っている。受診結果 は、家族に報告し一人ひとりの受診ノートに受診内容 を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 「いつもと違う」気付きを大切に、看護師に相談・ 報告しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を 行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は家族等と相談しながら、本人に関する情報の 提供を行っている。消耗品の補充や洗濯物の管理等行 いながら定期的に面会し、状態を把握し早期退院に向 けて医療機関と話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用開始時に、家族や利用者本人に、事業所の方針を 説明している。協力医療機関や主治医も協力的で夜間 でも対応してくれる。又、看護師や准看護師資格を有 する職員が数名いる。 (外部評価) 利用契約時に、重度化及び看取りに関する指針に基づ き事業所における介護の考え方を説明している。利用 者は重度化傾向にあるが、可能な限り事業所でケアが 継続できるよう取り組んでいるが、直接ケアしている 職員は少なからず終末期ケアに対して不安を感じてい る。	今後さらに利用者の重度化が進んだり、看取りの希望 が増えることが予想される。終末期ケアに関する外部 で行われる研修に参加したり、内部での勉強会をさら に充実させるなど知識や技術を習得し、少しでも不安 が解消できるよう今後の取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急講習会や勉強会等行い、急変や事故発生に慌てず適切な行動が取れるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の職員の指導のもと、地域の方々にも協力してもらい避難訓練等行なっている。スプリンクラー設置している。職員の緊急連絡網が必要時に確実に全職員に連絡がつくよう訓練している。 (外部評価) 消防署指導のもと避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して近隣の方と共に訓練を実施できるような協力体制を築いている。事業所のすぐ側に川があり大雨時に増水することがある。事業所の2階を地域の避難場所として検討している。災害時に備え必要な備蓄が整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保については、カンファレンスや日々話し合い、利用者に接する際の言葉や態度を職員同士で気をつけあっている。利用者一人ひとりを尊重した優しい暖かい声掛けや対応を心掛けている。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として、嫌がることをしない言わない等、声かけや接する態度に十分配慮しながら日々のケアを行っている。特に入浴やトイレ時の声かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりと、表情や視線等言葉に出来ない思いも五感で感じて、心で見よう、本人の思いや希望を汲み取るよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事時間、臥床時間等を各自のペースに合わせて柔軟に対応している。一人ひとりのペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望の利用者には行きつけの美容院にお連れしたり、又、2ヶ月に1回出張美容院の利用を支援している。その日着る洋服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下準備や盛り付け等利用者と職員と一緒に出来る事は一緒に行っている。職員は利用者と和やかに会話しながら一緒に食事をし、楽しく食事が出来る様支援している。	
			(外部評価) ユニット1階では、利用者のできることに応じて職員と共に準備や片付けを無理なくしてもらっている。ユニット2階は、重度化して支援が必要な利用者が多く職員が寄り添い援助しながら一緒に食事している。嚥下困難な利用者にはトロミ、キザミ食にする等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の献立は栄養士が作成し、食事量、水分量のチェック表も活用している。摂取状態に応じ、粥・刻み、トロミ等対応し安全に食べてもらっている。可能な範囲で、好みに応じた味付けや料理法を工夫する等、一人ひとりの希望に沿い、満足していただけるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄、消毒、歯磨き、うがい等見守りながら出来ないところを援助している。利用者の状態に応じて、スポンジブラシやマウスウォッシュを使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で利用者全員の排泄状況を把握している。援助の必要な利用者は、チェック表でパターンを把握したり、時間で誘導するなどし、昼間は全員トイレで排泄が出来る様支援に努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声かけを行っている。基本的にはトイレで排泄ができるよう支援をしている。利用者の状況に応じてオムツ、尿取りパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然排便が出来る様、牛乳、植物繊維の多い食材やおやつ工夫等対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室にはリフトが取り付けられており、介助が必要な利用者も無理なく入浴できる。週2回から3回の入浴を基本にしているが、体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴は、職員と利用者が1対1でコミュニケーションが取れる楽しい時間となっている。	
			(外部評価) 週2回、入浴できる体制を築いている。入浴時は、利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため利用者の思いが聞けたり、新しい発見がある場面でもある。浴室にはリフトが設置されていて安心安全に入浴できる体制を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や、就職時の気温や光、音に注意し、気持ちよく安眠や休息が出来る様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬箋を綴じ、何時でも確認できる。職員が薬を準備し、内服時に名前・日付確認し内服確認行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物量や食事の下準備、メモ帳づくりやシール貼り等楽しみながらしてもらっている。又花の水遣りや天気の良い日の散歩、月に1回は行事を取り入れ、季節感じ楽しみになるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩道やベンチが整備された河辺の散歩を楽しまれている。近隣の方もよく利用されており、あいさつを交わす等チョットした交流の場になっている。月に一回は行事を取り入れ季節を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 花見などの季節ごとの行事を企画し、外出する機会を作っている。外出が困難な利用者には玄関先の花壇を見ながら外気浴を行ったり、事業所周辺の景色を見ながら車いすで散歩する等している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いの管理できる利用者、支援の必要な利用者等一人ひとりの力量に応じた支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望される時は何時でも電話をかけたり、手紙のやり取りが出来る。又、取次ぎを希望される方には間に入り意思の疎通が出来る様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。トイレや脱衣場等も車椅子で移動しても問題ない広さである。 (外部評価) リビングは日当たりが良く、暖かい日差しが入ってくる。食卓テーブルやいす、ソファが設置されており、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。リビングとつながっている広いテラスに気軽に出ることもできる。壁には外出時の写真や利用者の制作した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、椅子、テーブル、テレビ等各所に配置していて、大きな窓で開放感もある。思い思いにゆっくり過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベッド以外の物は、馴染みのある愛着のある物を持ってきて頂いている。思い出の品等が飾られ、配置も自由で、居心地よく過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 居室にはベッド、エアコンが備え付けられており、クローゼット等の収納スペースも確保されている。使い慣れたタンスやテレビが持ち込まれており、壁には家族の写真などが飾られるなど、居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部はバリアフリー、手摺り、浴室マットの滑り止め、洗面手洗いの椅子、浴室のベンチ等安全かつ出来る限り自分で自分のことが出来る様工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600476
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	愛媛県喜多郡内子町平岡甲1243番地1 (Tel)0893-44-4555
自己評価作成日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*ホームは利用者にとって慣れ親しんだ山や河に囲まれ、河川や公園に隣接しており、四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に立っている。又ホーム内のリビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。 *職員の自主的な月1回の勉強会を行ない、自己啓発やサービスの質の向上に努めている。 *一日が気持ちのよいあいさつで始まり、気持ちのよいあいさつで終わる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じる事ができる。事業所の理念は、運営者が利用者との関わりを大切にしたいという気持ちが表現されたものとなっている。また、職員は、理念を実践するために、具体的な行動目標を各自のロッカーに掲示し、実現に向けて取り組んでいる。必要な知識や技術を習得するため、職員が講師となり、勉強会が月1回行われている。事業所全体で利用者のサービス向上に取り組まれていることが伺える事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 土居洋子

評価完了日 平成24 年 11 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時から社長夫婦の思いをこめて作られた理念が掲げられている。職員は理念を踏まえて個人目標を立て、実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念は、澄みきった「あおぞら」のように健やかで朗らかな生活が送れるようにと思いを込めてつくられている。さらに、理念を実践するため職員一人ひとりが具体的に個人目標を立て、各自のロッカーに掲示し、常に理念や目標を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の情報を得たり花いっぱい運動の一環としてホーム前の花の世話をしている。地域の道路清掃・祭りやバザーに参加し足り飲み物を提供したりして交流に努めている。 (外部評価) 自治会に加入しており、回覧板を通じて地域の行事などを把握し、積極的に参加している。事業所の避難訓練には、近隣の方にも参加してもらったり、地域の秋祭りに神輿や獅子舞いが来てくれるなど地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホーム共同主体で、愛媛県在宅介護研修センターの先生による出前講演会を開催し、町内の民生委員様はじめ多数の近隣の方に出席して頂いている。今後も広く地域に啓発しながら地域ネットワーク作りにおいても活かして生きたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 町担当者、地域代表者、家族等のメンバーで約2ヶ月に 1回開催しホームの状況等報告している。消防訓練・救 急救命には、職員や地域の方々にも参加してもらって いる。又町内のグループホーム合同で行っている運動 会や講演会等の行事と一緒に開催し、多くの方に参加 していただけるよう努力している	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、事業所の現状や行 事、課題等を報告したり、講演会や研修会を合わせて 行うなど工夫をしている。活発に意見交換がされてお り、出された意見は運営に活かすよう心がけている。	認知症高齢者の理解や、地域との交流や協力をより深 めるためにも、運営推進会議に消防や警察など各機 関、地域の様々な立場の方に参加を呼びかけるよう取 組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町の担当者は運営推進会議にも参加し、事業所の現状 を理解している。町役場が近いので、直接出向き、事 業所の実績やケアサービスの取組みの報告、介護保 険関係や提出物の書き方等教えてもらったり等気軽に 行き来している。町内の他の事業所との会議にも町の 担当者は出席しており、情報交換をすることができる。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の生活福祉 の支援上の課題等について相談したり研修のお知らせ などがあり、相互の協力関係が構築されている。ま た、介護相談員派遣事業の実施で、訪問活動が始まる ようになっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、身体拘 束にあたる行為を記載した文書を目につく所に貼り、 職員の意識向上を図っている。言葉での拘束等職員同 士で注意しあうようにしている。	
			(外部評価) 事業所で行う内部研修や勉強会で、職員全員が身体拘 束にあたる行為やその弊害について学習し、職員同士 で話し合いながら身体拘束のないケアを実施してい る。また、お互いに注意し合いながら言葉での拘束を しないよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ない職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて充分納得して頂くよう、説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との信頼関係を築くために、来訪時等、お茶をお出しし気軽に会話しながら、会話の中から要望を聞き取るよう努力している。玄関には意見箱を設置している。 (外部評価) ホームに対する意見や要望は意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議を通じて意見や思いを表せる場を設けている。また家族来訪時に、気軽に話し合える環境をつくっており、可能な限り対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員はリーダーを通じて意見や要望を社長や管理者に伝える事が出来る。社長や管理者は出された要望に必ず返答を行っている。又年2回の職員評価の時期には、個別に職員から聞き取りを行い反映させる工夫をしている。 (外部評価) 職員は日々の支援の中で気が付いたことや思いを各ユニットのリーダーに話し、管理者や運営者に伝わるシステムが構築されている。人事考課が行われており、運営者は職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。職員の個性を大切に、事業所全体の向上に繋がるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回（夏・冬）に人事考課を実施し、職員と面談をして、自己評価、上司評価を行い、昇給、賞与等を決めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の知識、経験等を考慮して、レベルに合った研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内のグループホーム連絡会にて月1回の管理者会を実施。又町内グループホーム合同の職員勉強会や、交流会を実施している。町内グループホーム合同の運動会や講演会も実施し、サービスの質の向上にも取り組んでいる。相互評価事業にも参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問し本人の言葉に耳を傾けるようにしている。不安や要望等、言葉の端々からも感じ取り、納得のいく話し合いが出来るよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族の困っておられる事、不安 なこと、要望等に耳を傾け、まず必要としている支援 を見極めながら話し合い、受け止めるように心掛けて いる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人、家族と十分に話し合い、 本人が自宅で暮らしを希望している場合は、在宅での ケアサービスの調整しての暮らしの可能性等、家族や ケアマネージャー等と話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 職員は「同じ目線で自然体で接する」ことを心掛け、 利用者と一緒に食事や作業をしながら、利用者の経験 を通しての教訓を教わったりしている。「ありがと う」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に、近況報告等に留まらず、家に居られた頃の 様子や要望等話して頂き、「本人が自分らしく心地好 く過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。 又、電話や定期的な手紙でも関係を築く努力をしてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 友人や知人の訪問があったり、病院受診の帰り等近く の店によって買い物するなど意識して行うようにして いる。 (外部評価) 利用者の友人や知人の訪問があったり、行きつけの美 容室や病院受診を職員が支援している。また、希望に より利用者の住んでいた家に出かけることもある。今 までの関係が継続されるように配慮して支援してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 不穏になられた利用者をそっと見守る雰囲気づくりをしたり、トラブル時は勿論だが、楽しい時も利用者同士が関りあえるよう間に入り、一緒に解決したり喜びあったりし孤立が無いよう努めている。又、性格や社交性等踏まえ、気の合う方との席の配置も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けをし、継続的な関わりが保てるよう心掛けている。又、何時でもできる限り相談に乗りアドバイスが出来る様心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用開始時に、本人、家族や関係者から様子を聞き取ったり、利用者本人との日常会話の中から希望や意向の把握に努めている。希望が上手に伝えられない利用者については、以前に聞き取った情報を基に本人本位になるよう心掛けている。 (外部評価) 利用者との関わりの中、特に入浴介護などの1対1になれる場面で思いを聞いているが、利用者の重度化が進み聞き取ることが難しくなっている。職員は、日常生活のしぐさや表情などから思いや意向を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人、家族との話し合いの中で1人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや様子観察、医療機関との連携等により、心身状態を把握し、一人ひとりに寄り添い、出来る力を見極め、ゆっくり待つ、見守る大切さを常に心掛けている。コミュニケーションを密にとり出来る限り本人の思いを汲み取っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見要望を聞き、担当者が素案を作成し、カンファレンスで職員全員で検討する。家族にも確認してもらっている。モニタリングも職員全員で行い、家族の要望等も盛り込みながら現状に合った介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の思いを反映した計画の原案を作成し、職員全員で検討している。完成した計画は、家族に説明して同意を得ている。毎月のケアカンファレンスで状況確認するとともに、現状に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の状態の変化や重要事項等は、赤青ペンを使用し注意しやすくしている。記録はその日の勤務者全員が関るようにしている。その時に関った職員が詳しく記入する事により、他職員も情報を取得し、新しくステップアップした介護計画に繋がるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院、買い物への同行や、自宅までドライブしたりと本人や家族の要望に応じて柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要時速やかに対応できる地域資源の発掘や、関りに努力している。必要に応じて地域資源と共同しながら支援したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とす る事が出来る。受診には職員が同行し、必要に応じて 家族にも同行してもらっている。結果は受診ノートに 記入し家族に報告している。協力病院の医師が月2回往 診をしてくれ、緊急時は夜間も往診してくれる。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を行って いる。通院介助は職員が対応し、必要に応じて家族に も同行してもらっている。協力医療機関の医師の往診 が月2回あり、緊急時は夜間も対応してくれる等、利 用者にとって安心できる体制が整っている。受診結果 は、家族に報告し一人ひとりの受診ノートに受診内容 を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 「いつもと違う」気づきを大切に、看護師に相談・ 報告しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を 行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は家族等と相談しながら、本人に関する情報の 提供を行っている。消耗品の補充や洗濯物の管理等行 いながら定期的に面会し、状態を把握し早期退院に向 けて医療機関と話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用開始時に、家族や利用者本人に、事業所の方針を 説明している。協力医療機関や主治医も協力的で夜間 でも対応してくれる。又、看護師や准看護師資格を有 する職員が数名いる。 (外部評価) 利用契約時に、重度化及び看取りに関する指針に基づ き事業所における介護の考え方を説明している。利用 者は重度化傾向にあるが、可能な限り事業所でケアが 継続できるよう取り組んでいるが、直接ケアしている 職員は少なからず終末期ケアに対して不安を感じてい る。	今後さらに利用者の重度化が進んだり、看取りの希望 が増えることが予想される。終末期ケアに関する外部 で行われる研修に参加したり、内部での勉強会をさら に充実させるなど知識や技術を習得し、少しでも不安 が解消できるよう今後の取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急講習会や勉強会等行い、急変や事故発生に慌てず適切な行動が取れるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の職員の指導のもと、地域の方々にも協力してもらい避難訓練等行なっている。スプリンクラー設置している。職員の緊急連絡網が必要時に確実に全職員に連絡がつくよう訓練している。 (外部評価) 消防署指導のもと避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して近隣の方と共に訓練を実施できるような協力体制を築いている。事業所のすぐ側に川があり大雨時に増水することがある。事業所の2階を地域の避難場所として検討している。災害時に備え必要な備蓄が整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保については、カンファレンスや日々話し合い、利用者に接する際の言葉や態度を職員同士で気をつけあっている。利用者一人ひとりを尊重した優しい暖かい声掛けや対応を心掛けている。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として、嫌がることをしない言わない等、声かけや接する態度に十分配慮しながら日々のケアを行っている。特に入浴やトイレ時の声かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりと、表情や視線等言葉に出来ない思いも五感で感じて、心で見よう、本人の思いや希望を汲み取るよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事時間、臥床時間等を各自のペースに合わせて乳軟に対応している。一人ひとりのペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回出張理容院の利用を支援している。その日着る洋服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者と和やかに会話しながら一緒に食事をし、楽しく食事が出来る様支援している。	
			(外部評価) ユニット1階では、利用者のできることに応じて職員と共に準備や片付けを無理なくしてもらっている。ユニット2階は、重度化して支援が必要な利用者が多く職員が寄り添い援助しながら一緒に食事している。嚥下困難な利用者にはトロミ、キザミ食にする等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の献立は栄養士が作成し、食事量、水分量のチェック表も活用している。摂取状態に応じ、粥・刻み、トロミ等対応し安全に食べてもらっている。可能な範囲で、好みに応じた味付けや料理法を工夫する等、一人ひとりの希望に沿い、満足していただけるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄、消毒、歯磨き、うがい等見守りながら出来ないところを援助している。利用者の状態に応じて、スポンジブラシやマウスウォッシュを使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で利用者全員の排泄状況を把握している。援助の必要な利用者は、チェック表でパターンを把握したり、時間で誘導するなどし、昼間は全員トイレで排泄が出来る様支援に努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声かけを行っている。基本的にはトイレで排泄ができるよう支援をしている。利用者の状況に応じてオムツ、尿取りパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然排便が出来る様、牛乳、植物繊維の多い食材やおやつ工夫等対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室にはリフトが取り付けられており、介助が必要な利用者も無理なく入浴できる。週2回から3回の入浴を基本にしているが、体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴は、職員と利用者が1対1でコミュニケーションが取れる楽しい時間となっている。	
			(外部評価) 週2回、入浴できる体制を築いている。入浴時は、利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため利用者の思いが聞けたり、新しい発見がある場面でもある。浴室にはリフトが設置されていて安心安全に入浴できる体制を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や、就職時の気温や光、音に注意し、気持ちよく安眠や休息が出来る様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬箋を綴じ、何時でも確認できる。職員が薬を準備し、内服時に名前・日付確認し内服確認行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物量や、新聞紙を使つての工作等、楽しみながらしてもらっている。天気のよい日の散歩、月に1回は行事を取り入れ、季節感じ楽しみになるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩道やベンチが整備された河辺の散歩を楽しまれている。近隣の方もよく利用されており、あいさつを交わす等チョットした交流の場になっている。月に一回は行事を取り入れ季節を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 花見などの季節ごとの行事を企画し、外出する機会を作っている。外出が困難な利用者には玄関先の花壇を見ながら外気浴を行なったり、事業所周辺の景色を見ながら車いすで散歩する等している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いの管理できる利用者、支援の必要な利用者等一人ひとりの力量に応じた支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望される時は何時でも電話をかけたり、手紙のやり取りが出来る。又、取次ぎを希望される方には間に入り意思の疎通が出来る様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。トイレや脱衣場等も車椅子で移動しても問題ない広さである。 (外部評価) リビングは日当たりが良く、暖かい日差しが入ってくる。食卓テーブルやいす、ソファが設置されており、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。リビングとつながっている広いテラスに気軽に出ることもできる。壁には外出時の写真や利用者の制作した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、椅子、テーブル、テレビ等各所に配置していて、大きな窓で開放感もある。思い思いにゆっくり過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベッド以外の物は、馴染みのある愛着のある物を持ってきて頂いている。思い出の品等が飾られ、配置も自由で、居心地よく過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 居室にはベッド、エアコンが備え付けられており、クローゼット等の収納スペースも確保されている。使い慣れたタンスやテレビが持ち込まれており、壁には家族の写真などが飾られるなど、居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部はバリアフリー、手摺り、浴室マットの滑り止め、洗面手洗いの椅子、浴室のベンチ等安全かつ出来る限り自分で自分のことが出来る様工夫している。	